

高校生の SNS における対人ストレスの特徴

佐藤広英 (信州大学)

キーワード：SNS, 対人ストレス, 高校生

問題と目的

総務省 (2013) によると, 小学校高学年から25歳までの SNS 利用者の56.9%が, 利用時にストレスを感じているとされる。従来, SNS 利用時のストレスに関する研究が行われている (e.g., 佐藤・矢島, 2015)。佐藤・矢島 (2015) は, 大学生の SNS における対人ストレス経験を, 5つの状況 (閲覧状況, プライバシー侵害状況, 悪口・中傷閲覧状況, 投稿状況, 疎外状況) ごとに測定する尺度を作成した。従来の研究では主に大学生が対象とされているが, 高校生の SNS 利用率も50%を超えており (総務省, 2014), 高校生においても SNS におけるストレス経験が多いと考えられる。そこで, 本研究では高校生の SNS における対人ストレス経験について, SNS 利用状況, 学校生活に関する変数との関連からその特徴を検討する。

方 法

調査対象者 クロスマーケティング社の消費者モニターの高校生を対象とするウェブ調査を実施した。有効回答は488名 (女性278, 1年生90名, 2年生182名, 3年生216名) であった。

調査内容 (a) SNS 上の対人ストレス経験: 佐藤・矢島 (2015) の20項目を用いた。最近1ヶ月における経験頻度を4件法で尋ねた。(b) SNS 利用状況: 主に利用する SNS を尋ね, その SNS の平均利

用時間, 相互にリンクする人数を尋ねた。(c) 学校生活に関する変数: 学内友人数, そのうち SNS でもリンクする人数を尋ねた。また, 河村 (1999) の学校生活満足度尺度 (承認・満足, 被侵害・不適応) を用いた。

結果と考察

各尺度は, 下位尺度を構成する項目の平均値を算出し, 各下位尺度得点とした。人数は対数変換した値を分析に用いた。SNS 利用状況は, 主に利用する SNS として LINE (n=226) と Twitter (n=228) を挙げた者のみを分析対象とした。SNS 利用状況に関する変数と対人ストレス得点との相関係数を算出した (Table 1)。その結果, 対人ストレス得点は Twitter 利用時間と正の関連がみられ, LINE 利用時間と閲覧状況と投稿状況において正の関連がみられた。次に, 学校生活に関する変数と対人ストレス得点との相関係数を算出した (Table 1)。その結果, 対人ストレス得点は, 学内友人数とは関連がみられないが, SNS リンク友人数との間に正の関連がみられた。また, 対人ストレス得点は, 承認・満足得点とは関連がみられないが, 被侵害・不適応得点との間に負の関連がみられた。すなわち, 普段の学校生活で対人ストレスを経験する者は, SNS においても対人ストレスを経験していると考えられる。

Table 1 SNS 利用状況および学校生活に関する変数と対人ストレスの関連

		閲覧状況	プライバシー侵害状況	悪口・中傷閲覧状況	投稿状況	疎外状況
SNS 利用状況	Twitter利用時間	.27 **	.25 **	.31 **	.14 *	.26 **
	Twitterリンク人数	.16 *	.11	.14 *	.06	.14 *
	LINE利用時間	.18 **	.02	.02	.17 *	.11
	LINEリンク人数	.16 *	-.06	-.08	.12 +	.13 *
学校生活 に関する 変数	友人数	.02	.04	.04	.03	.05
	SNSリンク友人数	.09 +	.11 *	.09 +	.09 +	.14 **
	承認・満足	.04	.06	.01	.07	.07
	被侵害・不適応	.25 **	.34 **	.38 **	.26 **	.31 **